駒場友の会

会報第９号

「教養学部長とご父母との懇談会」報告

五月十九日（土）、本学学生のご父母と教養学部長との懇談会が開催され、約二百名が参加されました。

これまでご父母と学部長とが親しく懇談する機会がなかったことから、駒場友の会が、会友になっていただいた新入生のご父母を対象に開催することになったもので、今回は、昨年につづいて第二回目。

十時半から十八号館ホールにおいて、小島憲道教養学部長による講演「駒場の魅力」が行われた後、十一時半からキャンパスツアーが行われました。

講演では、小島学部長は、自然科学を目指したご自身の少年時代からの思い出を交えながら、教養学部における学生像と駒場キャンパスの魅力について熱く語られ、ご父母の方々は興味深そうに聞き入っておられました。

キャンパスツアーでは、小島学部長、西中村副学部長をはじめとする教員二〇名が、それぞれ参加者十名ほどを引率して、図書館、講義棟（一号館、五号館）、課外活動施設（コミュニケーション・プラザ北館等）、美術博物館、教員研究室等にご案内しました。一号館では時計台の上にお連れし、眺望を楽しみました。

ひきつづき、懇親パーティが十二時三〇分から、四月にオープンしたばかりの駒場コミュニケーション・プラザ二階（生協食堂）で開催されました。小島学部長の挨拶、木畑洋一前学部長の乾杯のあと歓談に移り、その場で指名されたご父母の方々からのスピーチで、なごやかな雰囲気となりました。さらに、柏葉会合唱団による合唱、小島学部長との記念撮影もあって、盛会のうちにお開きとなりました。

駒場友の会第三回演奏会

駒場友の会主催による第三回演奏会「イタリアを巡るピアノ曲」が、五月二六日（土）十三時三〇分より、コミュニケーション・プラザ北館・音楽実習室で開催されました。今回は、昨年秋に導入されたスタインウェイ・フルコンサート・グランドピアノを用いたリサイタル。

演奏は、東京大学が誇る国際的ピアニスト高雄有希さん（文学部南欧文学科三年生）。駒場博物館で開催されていた「イタリア展」の関連企画として、イタリア大使館の後援も受けての演奏会となりました。

演奏会は、プッチーニのオペラ『ジャンニ・スキッキ』のアリア「私のお父さん」（高雄編曲）で始まり、高雄さんのやさしい語りを交えながら、スカルラッティのチェンバロソナタ・ホ長調、ショパンの舟歌、ドビュッシーの『ベルガマスク組曲』から「月の光」と「パスピエ」、リストの「ラ・カンパネッラ」、『巡礼の年』より「ダンテを読んで」が演奏され、その美しい音色、深い叙情性、目を見張るテクニック、躍動するダイナミズムに、一同酔いしれました。鳴りやまぬ拍手に応えてアンコール。シューマンの「トロイメライ」、ラフマニノフの「音の絵」op. 39－9、最後に、高雄さんが五歳のときにパルテノン神殿に感動して作曲したという「パルテノン」が演奏され、終演となりました。

ピアノとチェロの演奏会（8月2日）

「オープンキャンパス（駒場地区）」報告

東京大学オープンキャンパスが八月二日（木）に駒場地区で行われ、駒場友の会は、同伴の保護者向けの企画として、駒場コミュニケーション・プラザ北館にて、教養学部についての説明会と「学生名手によるピアノとチェロの特別演奏会」を開催しました。

十時から開催された教養学部についての説明会は、百名を越える聴衆で満員の盛況となりました。

演奏会は、十一時から音楽実習室にて開催。ピアノ高雄有希さんと、チェロ磯野太佑さん（経済学部四年生）が演奏されました。磯野さんも音楽コンクールに優勝・入賞歴のある音楽家です。この二人の名手による演奏会は、九時半頃から整理券を求めての行列が出来、会場は満員となりました。

プログラムは、前半は、ピアノ独奏で、フォーレの「夜想曲」とドビュッシーの前奏曲集第一巻から「沈める寺」と「西風の見たもの」、つづいて、チェロとの二重奏で、グノーの「アヴェマリア」、ショスタコヴィッチのチェロソナタ、サン＝サーンスの「白鳥」、チャイコフスキーの「優雅なワルツ」。後半は、ラフマニノフの「音の絵」、プロコフィエフのピアノソナタ七番という豪華なもの。アンコールは、ショパンの夜想曲第十三番（ピアノ）、シュー

マンのトロイメライ(チェロとピアノ)で、最後まで二人の名演奏を堪能しました。窓越しに見える青い空と緑の木々も美しく、駒場ならではの至福のひとときとなりました。

第四回総会報告

駒場友の会総会は五月二六日（土）に駒場コミュニケーション・プラザ北館二階多目的教室で開催されました。総会は一五時三〇分より本間長世会長の挨拶で始まりました。続いて、教養学部、一高同窓会、東京高校同窓会より祝辞を頂きました。以下、総会の式次第に従い報告します。

（一）二〇〇六年度事業報告

山本泰事務局長より以下の報告がありました。

①懇親会・講演会・演奏会などの開催

六月十日に新入生の父母一二〇名をお招きし、「学部長との懇談会」を開催。木畑洋一学部長の講演「駒場が若かった頃、私が若かった頃」、キャンパスツアー、懇親パーティを行い好評でした。八月二日に開催されたオープンキャンパスでは、父母との懇談会を開きました。十一月一日には駒場友の会主催第二回演奏会として「鈴木秀美チェロ演奏会」を開催し、バッハの無伴奏チェロ組曲より三曲を演奏。九〇〇番教室がほぼ満員となり盛況でした。十一月十一日開催のホームカミングデイでは、北海道演習林長の梶幹男教授をお招きし、「カエデ学ことはじめ」という題でお話頂きました。

②会報の発行とホームページの拡充

会報を八月（七号）と二月（八号）に発行しました。ホームページ上で「登録団体」サービスを開始しました。

③その他

六月十日開催の学部長との懇談会でご父母の皆様より頂戴した寄付金四〇万円を学部に寄付し、駒場コミュニケーション・プラザ南館二階に、絵画や写真の展示施設「メディアギャラリー」が設置されました。また、会友山本厚子さんよりアップライト・ピアノを寄贈いただきました。駒場友の会は調律などを行った上で学部に寄付し、三月末からファカルティハウスのセミナールームで利用されています。

④会員・会友数

二〇〇七年三月末日現在の会員・会友数は次の通りです。終身会員五六名、会員四一〇名、会友五八四名。一高同窓会員一五五名、東高同窓会員九一名。

（二）二〇〇六年度決算報告

事務局長より決算報告（第四頁別表参照）があり、宮川雅雄監事より収支決算報告書が適切である旨、監査報告がありました。

（三）二〇〇七年度事業計画

事務局長より今年度の事業計画について説明がありました。

①懇談会・講演会・演奏会などの開催

新入生の父母と学部長の懇談会（五月十九日）。第四回総会と高雄有希ピアノ演奏会(五月二六日)。オープンキャンパス（八月二日）。ホームカミングデイでの講演会とイベント（十一月十日）。ユリア・チャプリーナピアノ演奏会（十一月十四日）。

②会報の発行、ホームページの拡充

駒場友の会会報は九号を八月に、十号を二月に発行予定。ホームページ上で「団体登録」のサービスを拡充する。

（四）二〇〇七年度予算案の承認

今年度予算案（第四頁別表参照）について事務局長より説明がありました。費目等の内容は昨年度とほぼ同じですが、会員・会友数の増加に伴って収入と支出が増えています。

（五）役員選出

本間会長から、理事と監事の交代について提案がありました。

教養学部長の交代に伴い、小島現学部長を木畑前学部長に代わって新理事に任命する。監事の浅島誠教授は東京大学の理事（副学長）になられたために退任し、後任には木畑教授を選出する。

これらの議案を審議・承認し、総会は予定通り十六時三〇分に終わりました。

人を呼ぶバラに魅せられて

保田　龍夫

三七年間、記者活動を続けた社団法人共同通信社を三年半前に定年退社し、渋谷の私立高校で文章表現を教えたり、在宅で翻訳の仕事をしたりしている。教養学科に進んだので、在学中の四年間をどっぷり駒場で過ごした。

以前の会報で横山勝雄氏も紹介しておられたが、「駒場ばら園」という歴史あるバラ園が駒場にあり（あったと言うべきか）、その歴史を伝えるボランティア団体「駒場バラ会」が昨年一月、正式に誕生した。これに首を突っ込んだのが縁となって横山氏と知り合い、駒場友の会の存在を教えられた。関東のバラ愛好家の間では駒場ばら園の女主人・入澤嘉代さん（九〇歳）は有名な存在である。「バラは人を呼ぶんですよ」という台詞が嘉代さんの口癖である。同園から東大正門右手の小道に移植されたバラ管理の世話役を横山氏から引き継いだ私に昨年末、思いがけない話が舞い込んできた。東大創立百三十周年記念事業の一つとして小宮山宏総長が呼び掛けられた「知のプロムナード」整備構想に、応募協力の依頼が教養学部から内々にあった。

締め切りが迫っていたので会員有志と年始返上で企画書を作成し、一月半ばに提出した。梅林に至る約百三十五mの路地を整備し、歴史的な人物にちなんだ品種など多数を植栽し、世界のバラ育成の歴史も概観、気持ちの良いパーゴラやベンチなども配置して、思索と美の観賞の場にしようという計画だ。植栽に使用する腐葉土は学生有志

組織の「環境三四郎」から提供を受ける。東大本部からの回答待ちだが、もし実現すれば世界のどの大学にもないユニークな空間になると自負している。ご声援を賜れば幸いである。

企画書作成の過程で思わぬことも学んだ。日本で作出された有名なバラに〝のぞみ〟という蔓性のミニバラがある。白に淡いピンクの小輪の花が無数に咲き、いかにも希望を象徴するこのバラの作出に、胸をつく戦争の悲話が込められていた。作出者は埼玉ばら会会長も務められた小野寺透氏（理学博士、故人）で、《バラになった少女》と題する次の文を残されている（一部省略）。

「私と仲の良かった妹が、牧師と結婚して教会の事業にたずさわること半年で、その牧師は知る人ぞ知る南方の激戦地ガダルカナルへ出征した。その時生まれてくる子供に〝のぞみ〟と名づけて行った。（ガダルカナルで半死半生で生き延び、捕虜として米軍の通訳になった義弟は）結局無事帰国することになった。出征時に名付けた〝のぞみ〟は女の子で、父親の実家があった満州に渡った。渡った当時（昭和一八年頃）の満州は平和であったが、終戦後、ソ連軍の侵入で、女ばかりの一家の生活は苦しくなり、先ず祖母が亡くなり、次いで母も亡くなり次々に家族が死亡し、〝のぞみ〟は一人ぼっちになって、近隣の教会関係の人々に助けられ暮らしていた。

やがて帰国の順番が来て、三歳の〝のぞみ〟は一人で帰国列車に乗り、はるばる長い汽車の旅を続けて、日本に着き、やっと明日は東京に着く予定が列車の編成の都合で一日延びた。この延びた一日が幼い女の子に限りない悲劇となったのである。それは、この延びた日の東京品川に着く二時間前に、長旅の疲れか〝のぞみ〟は列車の中で息を引きとってしまったのである。

一方父親は品川駅に、生まれてはじめてのわが子を迎えに行って、未だ温もりの残っている我が子〝のぞみ〟を抱いたのである。この様にして父親は〝のぞみ〟の持ってきた二つの遺骨箱と一緒に浦和の家に帰ってきて、狭い我が家は一度に三つの葬式をすることになった。

私は昭和四三年頃から実生花を作り始め、最初の作出花に私は忘れ得ぬ、〝のぞみ〟という名前をつけた。」

「ピース」が第二次世界大戦終戦の年に世界の平和を祈念してフランスのメイアン家が作出した名花であることは有名だが、〝のぞみ〟もぜひ、この「知のプロムナード」に植えたいと願っている。

（三八文Ⅰ入学　四二年教養学科国際関係論分科卒）

トレーズ会と三鷹寮

平賀　俊行

稚内高校から東大（文一）に入学し、駒場に通い始めたのは、一九五一年四月、半世紀以上昔のことになってしまった。肩幅が広く、東大生としては体格が良かったため、正門前に陣取ったラグビー部の人達から熱心な勧誘を受けた。部室に拉致されかけたが、とにかく勉強するために東大に入ったのだからと、やっとの思いで逃げ出したのを覚えている。

入学後の第二外国語履修については、何となくフランス語と書き込んでいたため、クラス配置は、仏語未修の三クラスの一つ、十三D組に配置された。今に至るも続いているトレーズ会（フランス語の十三から命名）とのおつき合いの始まりである。六十人近いメンバーのうち都内の公立高校卒業生が圧倒的に多く、北海道出身者は私一人、それもさい果ての稚内ということで珍しがられた。

当初は寮に入ることは全く考えておらず、さりとて下宿するだけの経済的な余裕はなく、千葉県東金市の在にある母方の実家から列車と電車を乗り継いで片道三時間近くをかけて駒場まで通っていた。こうした無理を重ねるうち、いくら若くともこれでは身体が持たないと思いはじめ、三鷹寮に在寮し、後期の委員長に選任されていた同級の吉原泰助君（元福島大学学長）の勧めもあり、三鷹寮に入った。

すでに小学校の頃から麻雀を習い覚えていた私は、いつの間にかレギュラーメンバーとして定着した。麻雀以外でも寮の仲間達との生活は実に面白く、少しでも楽に通学したいという当初の願いはどこへやら、ほとんど学校に出ない寮人間になってしまった。

一九五二年度後期寮委員長に再び吉原君が就任し、私が副委員長として手伝うこととなった。委員会に入ってみると、結構世話役が性に合っていたと見え、初めて寮祭を企画実行したり、売店を開設し、深夜まで営業するなど、骨身を惜しまず働いた。寮に矢内原総長をお迎えしたのもその頃である。

そうした経緯で三鷹寮に在寮した一年半は、全くといってもよい程学校にご無沙汰し、教養学部を修了するには極めて厳しい状況であった。しかし出席が条件の体育の単位取得に関しては、学生部長の早野雅三先生のお口添えもあり、一年目の前半の皆勤を基礎に、平均して何とかセーフにしていただいた。外国語の試験の準備などについては、トレーズの仲間に適切なアドバイスを賜った。法学部に進むことの出来たのも、全くこうした皆様方のおかげと、今でも感謝している。

三鷹寮との縁は、大学卒業後も続いた。開寮十年の一九六〇年頃、寮の同窓組織（寮友会）を結成しようという動きが出て、寮に時々顔を出していた手近な先輩の私が会長に担ぎ出されてしまった。とは言っても、ほとんど活動らしい活動もなく、休眠状態が続い

た。一九九三年五月に新しい学生宿舎が建設されたのに伴い、自治寮としての三鷹寮は廃寮されることとなった。それを機に、寮友会も「三鷹クラブ」という名称で再出発することにした。旧三鷹寮のみならず、留学生を含めた新宿舎在住経験者についても先々メンバーになって欲しいという願いをこめての改組であった。それまで組織としての体裁が整っていなかったが、何とか精度の高い寮友名簿を作成するとともに、一万円の入会金で会員（その後は年会費を徴収せず、終身会員となる）を募った。現在千人を若干上回る会員が在籍し、各方面で活躍している寮友を講師として招き、年五～六回の定例会を開催するなど、世代の異なるメンバーが集う組織として、かなり活発に動いている。

一方、駒場で二年間を共に過ごしたトレーズの仲間は、実に結束が固く、組織のまとめ役として極めて熱心な小川君（元会計検査院第三局長）の差配の下、年一回六月十三日（昭和二六年の「六」と「十三」に因んだもの）前後に定例の会合を開催している。とくに同級の小和田恒君のお嬢様が皇室に嫁がれて以降は、夫婦同伴が原則となり、一段と賑やかな会となって今日に至っている。

いずれにしてもこうした同窓組織に参加し、そしてお世話出来るのは、健康その他の条件が整っているからであり、両組織に濃厚にかかわり続けている自分自身の幸せをしみじみと感じている。

（二六文Ｉ十三Ｄ　法学部第二類卒
東大三鷹クラブ代表世話人）

**爽やかな風に包まれてゆったりと
くつろぐことのできる**

フランス料理
ルヴェ ソン ヴェール 駒場

駒場友の会会員・会友の皆様がお食事の際に
注文なさったコーヒーは、支払いの際に会員
会友証を提示下さいますと無料となります。

営業時間　11：00 ～ 14：30、17：00 ～ 21：00
Tel: 03-5790-5931 / Fax: 03-5790-1902

駒場ファカルティハウス内

会員・会友限定チケット割引

ジャズとクラシックの両分野で活躍するピアニスト・作曲家フレッド・ハーシュ氏が九月に初来日します。駒場友の会の会員・会友は、カザルスホールでの演奏会（九月二八日（金）十九時）に特別優待が受けられ、S席八千円が四千円に、A席六千円が三千円になります。ご希望の方は、同封の郵便振替用紙に、氏名、住所（チケット送付先）、電話番号、駒場友の会会員証番号、チケットの種別（SまたはA）と枚数、合計金額をご記入のうえ、九月二一日(金)までにお振込ください。

問い合わせ先：クラブ フォリア
中村葉子　TEL 090-8529-6453

平成18年度駒場友の会収支決算書

収入の部　単位：円

		予算	決算
会費収入		4,600,000	4,609,000
	通常会員会費	2,000,000	1,823,000
	会友会費	1,000,000	1,586,000
	終身会費	1,600,000	1,200,000
寄附収入		500,000	500,610
雑収入		50,000	1,306
	預金利息	0	306
	その他	50,000	1,000
小計		5,150,000	5,110,916
前年度繰越金		6,296,950	6,296,950
合計		11,446,950	11,407,866

支出の部　単位：円

		予算	決算
印刷費		600,000	317,318
	会報・案内等の印刷費	400,000	168,210
	封筒・便箋の印刷	200,000	149,108
通信費		700,000	545,884
	郵送費	664,000	511,451
	電話使用料	36,000	34,433
事務経費		400,000	344,653
	事務用品費	180,000	20,267
	コピー機使用料等	70,000	184,918
	インターネット接続料	50,000	44,104
	会費振込料金負担分	100,000	95,364
人件費		900,000	591,429
	事務局スタッフ		549,429
	臨時		42,000
運営費		800,000	831,216
	事務室借料	235,800	235,800
	光熱水料	60,000	43,629
	会員証作成費	350,000	509,752
	その他	154,200	42,035
事業費		800,000	1,248,333
	6.10　父母との懇談会		200,849
	11.1　チェロ演奏会		196,919
	11.11　ホームカミングデイ		372,340
	その他		478,225
予備費		200,000	0
小計		4,400,000	3,878,833
次年度繰越金		7,046,950	7,529,033
合計		11,446,950	11,407,866

平成19年度駒場友の会予算案

収入の部　単位：円

		予算
会費収入		5,600,000
	通常会員会費	2,000,000
	会友会費	2,000,000
	終身会費	1,600,000
寄附収入		500,000
雑収入		12,000
	預金利息	10,000
	その他	2,000
小計		6,112,000
前年度繰越金		7,529,033
合計		13,641,033

支出の部　単位：円

		予算
印刷費		450,000
	会報・案内等の印刷費	250,000
	封筒・便箋等の印刷費	200,000
通信費		836,000
	郵送費	800,000
	電話使用料	36,000
事務経費		495,000
	事務用品費	100,000
	コピー機使用料等	220,000
	インターネット接続料	45,000
	会費振込料金負担分	130,000
人件費		1,080,000
	事務局スタッフ	1,000,000
	臨時	80,000
運営費		1,285,800
	事務室借料	235,800
	光熱水料	50,000
	会員証作成費	850,000
	その他	150,000
事業費		1,700,000
予備費		265,200
小計		6,112,000
次年度繰越金		7,529,033
合計		13,641,033

駒場友の会会報　第9号

2007年8月31日発行
駒場友の会
〒153-8902
目黒区駒場3-8-1 東京大学
駒場ファカルティハウス内
電　話　03-3467-3536
FAX　03-3465-3334
郵便振替口座
00170-3-481649
メールアドレス
info-tomo@adm.c.u-tokyo.ac.jp
ホームページアドレス
http://www.c.u-tokyo.ac.jp/ilovekomaba/